

北の大地の仲間たち

—2019—



第1回 障害の重い仲間たちの働く意味を たしかめ合いながら

ディアクティビティセンターあかしあ
主任生活支援員

山浦幸喜

社会福祉法人あかしあ労働福祉センターは、北海道のほぼ中心に位置する人口約34万人の中核市・旭川市にあります。

法人の原点は、障害のある当事者たちの手で1988年に開設された小規模作業所「手づくり工房あかしあ」で、1997年に法人を設立し、北海道内では初の三種（身体障害・知的障害・精神障害）^{がっく}合築による通所授産施設を開設し、当時も本誌で「北の大地の仲間たち」というタイトルで、1年間連載させていただきました。

あれから20年が経ちましたが、この間もどんな障害があっても、またどんなに障害が重くても通所を希望する人を受け入れるために、地域のみなさんの理解と協力をいただきながら、障害のある人や家族のみなさんの切実なねがいに応えるべく、必要な施設をつくるために懸命の努力を重ね続け、現在では旭川市内に8カ所の通所事業所（就労継続支援B型・生活介護）や相談支援事業所と5カ所のグループホームを運営しています。

通所を希望するさまざまな障害のある人を受け入れてきたわたしたちですが、障害の重い特別支援学校卒業生の進路保障に向けて、5年前の2014年4月に開設されたのが生活介護事業所「ディアクティビティセンターあかしあ」（以下「DAC」）です。

現在、DACには地元の旭川養護学校の卒業生を中心に28名が在籍し、その約半数が医療的ケアを必要とする利用者です。職員は生活支援員や看護師、理学療法士などで構成され、作業を中心とした日中活動を中心に、入浴や機能訓練などの支援のほか、さまざまなレクリエーション活動を通して発達の保障をめざした実践に努力を重ねてきています。

生活介護だって働く場！

DACには、広々とした施設の中に、重度の肢体障害のある利用者が安心して入浴できるよう、浴室に備え付けられた介助用リフトや、理学療法士による機能訓練を行う訓練室、4カ所あるトイレ内

にも介助用のベットがあり、利用者にとって過ごしやすい環境と なっています。

そして、DACの役割は、なによりも仲間たちや家族の生活面でのサポートのほかに、作業や日中活動など毎日の生活をゆたかに過ごすためのとりくみがあります。なかでも、作業は重度重複障害のある利用者にとって、働くなかで社会に参加し、わずかでも工賃を得て、人として「生きる力」を培う貴重な活動の場面になっていると実感する毎日です。

働いていることを 実感

隼人さん（23）は、養護学校在学中は生徒会の副会長を務めるなど、明るい性格で人と話すことが大好きな方です。

彼は遺伝子疾患であるレッシュ・ナイハン症候群によるアテトーゼ症状により、筋肉の緊張の度合いが突然変わってしまい姿勢を保持するのがむずかしく、日中の大半をバギー型の車椅子に乗って生活しています。

自分の意思とは無関係に体が動いてしまう不随意運動や、人前で話をしようとするとき全身の緊張が高まってしまい、上手にしゃべることができないこともあります。が、アニメやドラマが大好きで、見た感想などをうれしそうに一生懸命に話し、彼のまわりは常に笑顔が絶えません。そんな隼人さんも、当初は人と接することへの不安などから、呼吸困難になるほど全身に筋肉の緊張が入り、足をバタバタさせるような不随意運動が多く見られていました。

「無理をさせてまで作業に参加させなくても良いのでは」「本人がかわいそう」との声もありましたが、本人の「仕事がしたい」という気持ちを尊重し、看護師や理学療法士と連携することで本人が安心して作業に参加できるようサポートしてきました。今では自ら職員や仲間たちとコミュニケーションをとりながら、旭山動物園で販売しているアクセサリーなどの自主製品づくりの作業に積極的に参加しています。

週三日の作業のなかで、隼人さんは製品のラッピング作業や台紙切り、配達業務などたくさん役割を担っています。台紙切りは、ハサミが使えなくても紐を引っ張ることで切ることができる自器具を使用し、ゆつくりとですが本人が意図的に力を入れ正確に切ることができます。そして「ヤッター」と、できたことに喜びを表現してくれます。作業中もコミュニケーションを大切にしている隼人さんは、周囲の職員や仲間を明るい雰囲気にしてくれます。

隼人さんは責任感が強い方で、製品の配達に積極的に手を挙げ、「俺が行く」と、いきいきとした表情で配達に出かけて行きます。その配達先では、たくさんの人とあいさつを交わし「ありがとう」「ごくろうさま」と言ってもらえることが、なによりうれしいようで、彼のなかでの労働に対するモチベーションとなっています。もちろん、こうした「しごと」は、すべて職員がマンツーマンで対応し、安全や健康面に対する最

障害のある人の労働を考える



人気のおさひやま動物園グッズ